

# アイワードグループ 本づくりと出版のごあんない



株式会社アイワード



共同文化社

私たちアイワードグループは、  
本づくりと出版活動を通して  
社会に貢献します。



アイワード本社ビル  
アイワード／共同文化社

アイワードと共同文化社は、札幌市の中心を流れる創成川東側にあたる「創成イースト」に立地しています。北海道開拓期から工業拠点となっていたこの地域は、新旧の建造物が立ち並び、札幌中心部からもアクセスのよい場所です。

## アイワードグループの経営指針

### 経営理念

私たちちは〈文字〉や〈画像〉が「知性」や「感性」の豊かな運び手として政治・経済・文化・生活に果たす役割を大切に考え、それらを印刷メディアや電子メディアを通して広く社会に伝えるお手伝いをすることを自らの責務とします。

私たちちは共に学び合い育ち合って、真心のこもったサービスとより良質の製品を提供できるよう努力し

結果として環境や労働条件が改善され

従業員が「幸せ・ゆとり・豊かさを味わえる」会社づくりをめざします。

### 経営方針

1: 民主的に運営します。

- ・開かれた経営…情報の共有化をはかります。
- ・男女の性による差別、障がいによる差別をしません。

2: 自主的・自覚的な行動を大事にします。

3: 目標と計画を大切にします。

### 経営政策

1: PR (パブリックリレーション)

2: 非価格競争力

3: 社員共育

### めざす社員像

- ・いつも力を合わせていこう
- ・陰でこそしないでいこう
- ・働くことが一番好きになろう
- ・何でも、何故?と考えよう
- ・いつでも、もっといい方法はないか探そう

## アイワードグループではたらく社員 (2025年4月1日現在)

従業員数

**209名**

平均年齢

**47歳**

男 女 比

**男56% | 女44%**

平均勤続年数

**22年7か月(男26年2か月 | 女19年9か月)**

障がい者雇用率

**10.0%**



アイワードは、障がい者と健常者が共に学び、共に育つ環境づくりを50年間にわたり取り組み、「北海道障がい者就労支援企業」として北海道知事から認証を受けています。

この認証マークとキャッチフレーズは、ともに公募の中から当社社員の作品が採用されました。

たくさんの笑顔が咲く北海道であってほしいという想いを込めて、受け入れ支える葉の上に花を描いた認証マークに、「みんなで支える。働く笑顔」というキャッチフレーズが添えられています。

### 有資格者

厚生労働大臣認定印刷営業士 14名

厚生労働大臣認定オフセット印刷技能士1級 21名

厚生労働大臣認定オフセット印刷技能士2級 12名

労働局長登録有機溶剤作業主任者 7名

労働局長登録フォークリフト運転資格者 18名

労働局長登録第一種衛生管理者 3名

XML技術者育成推進委員会 XMLマスター 2名

日本印刷技術協会 DTPエキスパート・マイスター 11名

日本印刷技術協会 DTPエキスパート 12名

公益社団法人色彩検定協会色彩検定資格取得者1級 2名

公益社団法人色彩検定協会色彩検定資格取得者UC級 3名

公益社団法人色彩検定協会カラーコーディネーター検定3級 1名

公益財団法人日本漢字能力検定協会日本漢字能力検定2級 4名

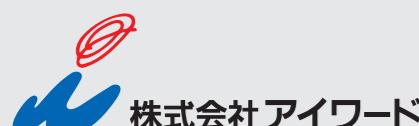
公益財団法人日本漢字能力検定協会日本漢字能力検定準2級 15名

文章読解・作成能力検定資格取得者2級 1名

障害者の雇用の促進等に関する法律準拠障がい者職業生活相談員 4名

## 高度な印刷技術と、編集・校正・流通の出版ノウハウが提供する高品位な本づくり

ブック印刷事業 | 情報処理・システム開発事業 | 褪色カラー写真復元事業



「言ったことは、きちんとやりあげる会社」から  
「驚いた。感動した。と言われる会社」をめざします。  
従来の「印刷業」の技術を大切にしながら  
「情報価値創造産業」への業態改革に取り組んでいます。

代表者：代表取締役社長 奥山 敏康

創業：1965（昭和40）年9月

設立：1966（昭和41）年10月

資本金：67,185千円

従業員数：役員8名、正社員178名、契約社員25名、嘱託6名（2025年4月現在）

主要得意先：医学書院、日本加除出版、帝国書院、サラブレッド血統センター、北海道大学出版会、東京商工リサーチ、

北海道新聞社、北海道大学、北海学園大学、日本書道評論社（敬称略）

取引銀行：北洋銀行、北海道銀行、日本政策金融公庫、商工組合中央金庫

書籍の企画 | 書籍の編集 | 書籍の販売事業



代表者：代表取締役 奥山 敏康

設立：1980（昭和55）年9月

資本金：10,000千円

従業員数：役員3名、社員1名（2025年4月現在）

主要取引先：トーハン、日本出版販売、地方・小出版流通センター、アマゾンジャパン

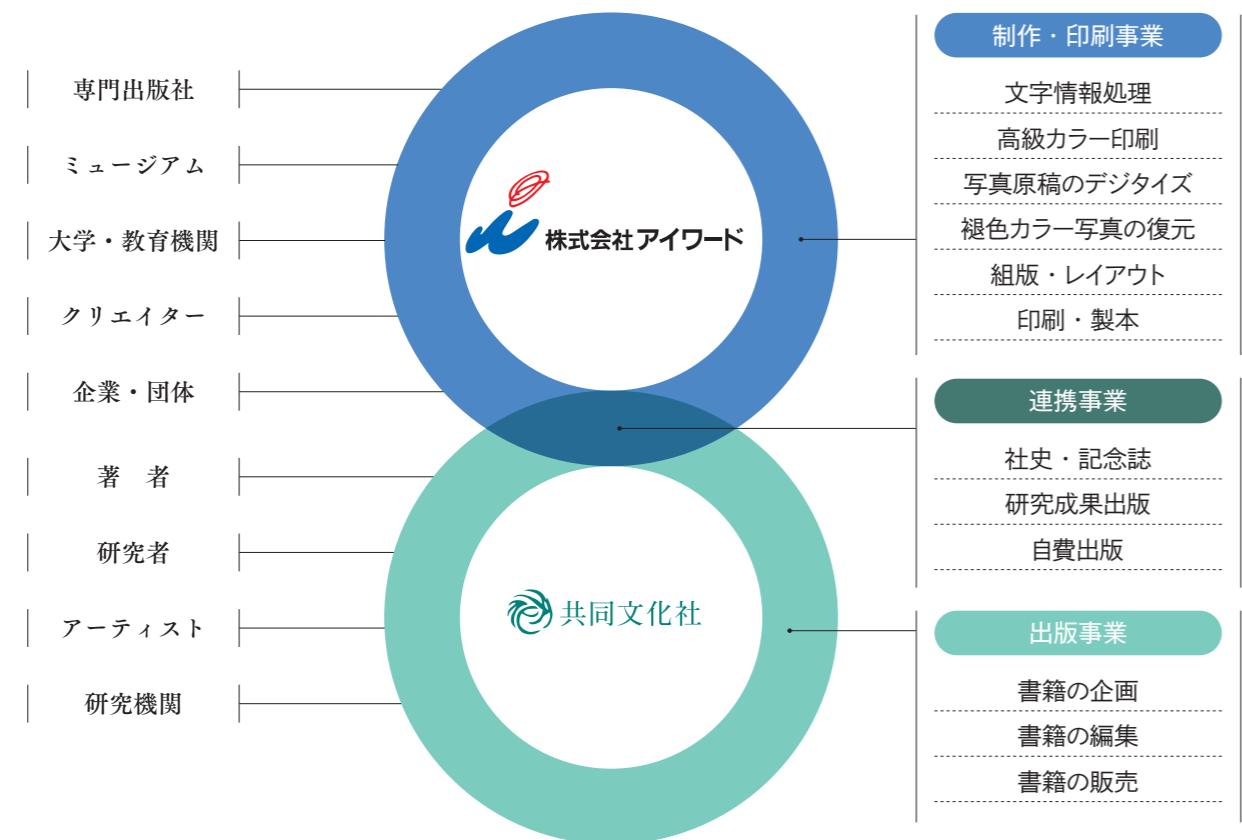
図書館流通センター（TRC）

北海道デジタル出版推進協会（HOPPA）

取引銀行：北洋銀行

私たち共同文化社は地域文化を掘り起こし、著者とともに出版コンテンツを育てます。出版文化活動に貢献することで、本づくりの未来を創造します。

企画—制作—印刷—製本—出版まで、  
トータルでお手伝いする  
アイワードグループのフレームワーク



原稿が持つ「伝える力」を高め、お客様と伴走する本づくり



海外アーティストのアートブック

海外からのお客様が、石狩工場を訪れ、繊細な色づくりを得意とする当社技術者とともに行うアートブック制作。技術者との対話を重ねながら仕上げていくプロセスは「体験価値」として、高い評価をいただいている。



社史・記念誌

20年、30年、50年といった周年を機に、書籍を通してお客様の事業を後押しする体制を整えています。「組織のアイデンティティの再構築」、「創業精神の継承」、「組織のこれまでの振り返り」などの目的で社史や記念誌の発行を検討される傾向が高まっています。

人を育てる本、人の命を守る本、人の営みをあらわす本



文字情報処理・高級カラー印刷・企画出版物

事典やマニュアルの制作には、汎用データベースの構築、自動組版、電子媒体への多目的展開など、それぞれの出版物に適したワークフローと文字情報処理で専門出版社の書籍制作をお手伝いしています。また、写真集や芸術分野においては、紙・印刷・造本に関する深い知識を活かして印刷技術の可能性を拡げ、高品位で創造性豊かな本づくりを行います。



研究成果出版

大学での研究や、今までの経験で培ったノウハウをまとめた原稿をもとに、著者のご要望を伺いながら書籍づくりの方向性を見つけていきます。伝わりやすさや読みやすさなど、出版社の立場からアドバイスを行います。



自費出版

自分の想いのままに出版できる自費出版には、主題や内容などに大きな制約はありません。昭和、平成、令和を生き抜いてきた方々の「著書を持つ喜び」を、専任担当者がサポートします。自身を映し出す存在であり、一生の宝物になる書籍制作をお手伝いします。

文化コミュニケーション

## 季刊アイワード

北海道の印刷出版文化情報を独自に取材し、社員が企画・編集する。

アイワードグループはコミュニケーションを大切にしています  
アイワードのオウンドメディア、北海道の印刷出版文化情報誌『季刊アイワード』を年に4回発行しています。経営理念の実践として「印刷を通して社会発展の一翼を担う会社らしい社会貢献」を模索する中、1981年に創刊した『月刊ニュースきょうどう』が始まりです。

企画・編集はすべて社員が手がけ、北海道に関わる文化的な取り組みを毎号特集しています。また、北海道で出版された本の紹介など地域密着の内容で構成するフリーペーパーとして毎号7,000部を発行。図書館などの公共機関や全国のお得意先に配布しています。

2021年には企業メセナ協議会の「THIS IS MECENAT」に認定され、同年7月発行の第10号（通巻356号）より、表紙に企業メセナ協議会の認証マークを配置しています。



メセナマークは、「芸術文化を通じた豊かな社会づくり（メセナ）」のシンボルマークです。

社内コミュニケーション

## 日報 × 社内報「フォーラム」



社内報「フォーラム」の編集は、総務・共育部の担当者が行っています。第1号から現在までの社内報「フォーラム」はすべて合本し、資料室で大切に保管しています。2025年3月24日で第6930号に達しました。

社員一人ひとりの情報発信が、未来をつくる。

アイワードグループでは、全社員が毎日業務終了後に書く「日報」と、その内容をフィードバックする社内報「フォーラム」により社内のコミュニケーションを図っています。

日報には、業務内容だけでなく、仕事や生活の中での気づきなど「何でもよいから自由に書く」という点が当

社オリジナルのスタイルです。提出した日報は、毎日経営層に届けられ、全社員へ伝達したほうがよいと思われる内容を氏名・所属部署とともに原文のままで社内報「フォーラム」に掲載し、全社員にフィードバックします。

この取り組みは1983年から実施しており、社内報「フォーラム」は、ほぼ毎日発行しています。

さまざまな社内委員会活動で

“共に育ち合う”会社づくりを推し進めています。



季刊アイワード委員会の様子

アイワードグループでは、部署を超えて社員同士が協力し合い、会社をより良くしていくための委員会活動を活発に行っています。出版委員会、技術広報委員会、業務改善委員会など、10を超える委員会がそれぞれの目的に沿って運営されています。

また、委員会活動は社内だけではなく、地域とのつながりも意識した活動へと拡げ、社員一人ひとりが街の一員として地域の方々とのつながりを感じることができるように、清掃活動や活性化イベントなど地域の企業と協力してさまざまな活動をはじめています。



地域の小学校の下校時間にあわせて安全を見守り、街の美化に貢献する「秋の見守り清掃活動」（主催：サッポロ不動産開発株式会社）の様子



社内委員会が当社オリジナルのメモ帳やダイアリーなど、ノベルティを制作しています。



サッポロ不動産開発株式会社主催の「あおぞらまつり」で、共同文化社の書籍を社内委員会が中心となって販売しました。

## 本づくりコミュニケーション①

## 常設展示スペース

本づくりの視点で、さまざまなジャンルの本を楽しむ。



石狩工場 作品展示室

本社資料室と石狩工場の作品展示室には、アイワード独自の技術で制作をお手伝いした書籍を厳選して展示しています。医学、薬学、獣医学、化学、地理、考古学、美術、芸術など、首都圏の専門出版社の書籍や、社史・記念誌、自費出版までを網羅しており、お客様との本づくりコミュニケーションの場となっています。

また、石狩工場には当社のあゆみを技術軸で展示した歴史資料室も設置し、毎年多くのお客様が見学に訪れています。



石狩工場 歴史資料室

## 本づくりコミュニケーション②

## 展示会開催・イベント参加

本の魅力を、著者とともに伝えていく。

出版をお考えの皆様に出版実例を手にとってご覧いただき、本づくりを身近に感じてもらうため、ブック印刷に関する展示会をアイワードと共同文化社の共催で定期的に開催しています。会場では、プロのアドバイザーが出版に関する相談を随時行っています。

また、共同文化社の取り組みとして本のテーマにあわせた文化教室や原画展などを著者と共同で実施しています。

共同文化社で発行した書籍は、地域イベントでの販売もすすめています。



『画文集 四季のきせき』原画展（旧永山武四郎邸）



北海道デジタル出版推進協会主催のヨマサル市



著者と行うトークイベントの様子（2024年自費出版・記念誌展、さっぽろテレビ塔）

## 本づくりコミュニケーション③

## 技術情報の発信



アイワードチャンネル（YouTube）

印刷・出版に関する情報を、フリーペーパーや公式の Facebook、Instagram で発信しています。

また、公式 YouTube チャンネルでは、本づくりに関するセミナーのアーカイブやスマートファクトリー石狩工場を解説した動画などを公開しています。

# アイワード

一冊の本の隅々まで、すべての知恵と技術を注ぎ込みます。

アイワードは創業以来、ブック印刷を主軸とした印刷技術の向上と体制の整備を図ってきました。2017年には石狩工場のスマートファクトリー化に向けて環境を構築し、札幌本社にある「営業」「生産管理」「組版」と石狩工場にある「印刷」「製本」は、基幹システムを活用し一元管理をしています。

## 札幌本社

▲ プリネクトワークフローシステム ▼



**調色機**

石狩工場内で特色的インキを調色しています。

**断裁機**

ポスター やチラシの化粧断ちはもちろん、印刷機へ用紙を通すための下準備としての断裁全般を行います。

**2**

## 石狩工場

刷版、印刷、製本のラインが並ぶ2,850坪の工場内では、用紙や印刷の状態を安定させるため温度と湿度を24時間・365日管理し、床材には、はたらく人と紙にやさしい木製床を採用しています。また、機械から排出される用紙クズやパウダーは、ダクトなどで集め再利用しているゴミ低減工場です。

**1**

### 枚葉印刷機

枚葉印刷機は、巻き取りのロール紙にも対応した、全台カットスター付きです。印刷ユニットに印刷版を自動セットし、K→C→M→Yの順に印刷します。

**5**

### 自動カバー・帯掛け製本機

製本した中本に対して、カバーや帯掛けを自動で行います。スリップやハガキを本文に投げ込むこともできます。

**4**

### 中綴じ製本機

針金を使った中綴じ製本で、三方断裁まで行います。

**3**

### 紙折機

面付けに合わせて、折丁をつくります。パンフレットなど、折り加工全般を行います。

**4**

### 無線綴じ製本機

折丁を順に束ねて綴じ、三方断裁まで行います。PUR製本・アジロ綴じ・無線綴じはこの機械で行います。

Smart Factory



## 正確さ・スピード・効率化を具現化する、システムエンジニア集団。

アイワードには、文字情報処理とシステム開発を専門とするチームがあります。資料性の高い専門書籍の制作に精通したエンジニアが、自動組版プログラムとDTPシステムを連動させ、目次や索引、ノンブル、参照ページなどを生成します。これにより正確性と短納期を実現し、1,000ページを超える事典などの書籍に対応しています。

データベースの構築から担う組版プログラムにより、紙・デジタル・ハイブリッドなどの書籍形態やアプリ版との連動など、さまざまな場面で最適な仕組みを提供します。



## 本づくりの知恵と知識を備えた、組版のスペシャリスト。

お預かりしたデータをそのまま印刷するだけではなく、企画・編集・プリプレスの段階から丁寧に関わり、お客様のパートナーとして本づくりをお手伝いします。

アナログ時代からの知識と最新のデジタルノウハウを持ったスタッフが、文字・画像・トレス・レイアウトなどさまざまな場面で、印刷への最適化を図ります。また、それぞれの分野に精通したオペレーターが、ご自身でのデータづくりにお困りのお客様へ、効率化に向けた最適なアドバイスなども行っております。



Smart Factory



安定した品質には  
理由があります。

アイワードは、オフセット印刷の国際規格「ISO12647-2」に基づいたPSO（Process Standard Offset）認証を2008年に日本で初めてプリプレス・プレスの2部門において同時取得しています。

この認証は、プリプレス部門では「指定された基準に対して正確にプロファイルを作成しブルーフ出力までできること」、さらにプレス部門では「印刷条件を考慮してベタ値やドットゲイン値を管理しオフセット印刷機で安定した印刷ができる」とを認める国際規格で、ドイツの印刷関連団体認証機関であるFograが行う認証です。



## 国際規格をクリアした印刷品質と、個別のニーズに対応した色づくり。

1998年に竣工したスマートファクトリー 石狩工場では、ハイデルベルグ社製の枚葉印刷機をスピードマスターXL106シリーズに4台統一し、自動運転の比率を高めることでフレキシブルかつ効率的に生産できる体制を形成しています。8色両面機の性能をフルに活用して、薄紙両面印刷にも対応します。従来のAMスクリーン、FMスクリーンに加え、2024年に最新スクリーニング技術「マルチドット」を国内初導入しました。これによりAMスクリ

ーンでは難しかった滑らかな色調の表現が可能になり、さまざまなお客様のニーズに対応できるバリエーションを揃えました。

高精細7色で表現するスーパーファインカラーや、多色刷りでモノクロームを表現するスーパーリアルブラックなど、色の再現領域を高めるための印刷技術で、高品質な写真集や作品図録の制作を実現します。

### “汚れ”や“カスレ”を検知

刷版データと刷本をデジタル比較

品質検査装置「BISAI」



刷版データと実際の用紙に印刷したシートをBISAIによってデジタル比較し、印刷物に汚れが発生していないか、文字の欠けやカスレがないかを点検します。この検査をクリアしたOKシートを品質の基準として連続的に印刷しています。

高速で稼働する印刷紙面を常時監視

紙面検査装置「SENSAI」



SENSAIは点検したOKシートを基準に、連続的に印刷する用紙を4K・8Kのカメラで監視しながら比較・点検を行います。汚れやカスレが発生すると、目印として刷本に自動で紙テープが差し込まれます。また、刷本一枚一枚をIDで管理し、不良情報の履歴を追うことが可能です。

### 印刷工程の QUALITY CONTROL

### “色”のズレを検知

印刷時の色の変化を見逃さない

分光光度計



3台の枚葉両面印刷機にはインライン分光光度計が搭載されており、印刷中は常時監視し自動で色をコントロールしています。

分光光度計によって、稼働中の印刷における色の濃さや網点の太り量の変化を測定し、色品質の管理を行っています。



繊細で、精密な、本づくりの最終地点。



## 自動検知装置搭載の製本システムで一貫した製造プロセスを実現。

無線綴じ製本は、1~65 mm の厚さの製本が可能なアレグロ 30 鞍と、2~80 mm の厚さの製本が可能なボレロ 21 鞍の2台体制で行っています。ともに開口性・耐久性に優れた PUR 糊とホットメルト糊とを使い分けることができ、あらかじめ下処理した仮丁合を自動合本できるブックブロックフィーダーを活用することで、2,000 ページを超える厚物を効率よく製本することができます。中綴じ製本は、プリメーラ MC 6 鞍とブラボプラス 8 鞍

により、A6 判~A3 判までの多彩な中綴じ製本が可能です。

アイワードの製本システムはすべてミューラー・マルティニ社製で統一し、さまざまな自動検知システムにより、品質を保証します。

また、札幌本社と石狩工場間は基幹システムにより造本設計や生産状況をリアルタイムに取得し一元管理しながら、生産・品質の改善サイクルを回しています。

## 製本工程の QUALITY CONTROL

### 確実に“乱丁”を防止する、3つの自動検知

#### 乱丁検査装置「アジール」



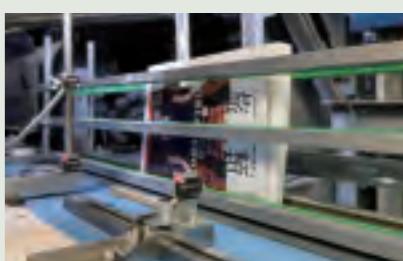
折丁の余白部分に製本情報を持つバーコードを印字し、製本時に自動で読み取ることで、乱丁を防止します。印刷・製本の一貫体制が強みを発揮するこの乱丁検査装置「アジール」を、すべての製本機に搭載しています。

#### 重量検査装置



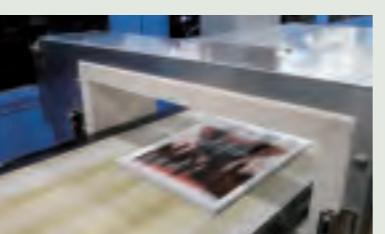
あらかじめ正しい1冊の重量を登録しておき、重量に合致しない本を検出します。

#### 測長検知装置



綴じ終えた本の長さを天地左右それぞれセンサーにより測定し、折丁のずれが起きていないかを検知します。

### “異物混入”を防止し安全を保証



#### 金属検査装置

金属片等の異物が入っていないかを検知する金属検査装置により、万が一の製品への異物混入を防ぎます。

### 書籍の“強さ”を保証



#### 引っ張り強度テスト

仕上がり本のページを測定器で引っ張り、本の強度（糊の付き具合）のチェックを数値によって確認します。

## 北海道立総合研究機構工業試験場との共同開発



### 褪色カラー写真の復元技術を 道総研との共同で開発

カラーフィルム 90 年の歴史の中で、社会的資産として数多くの写真が撮影されました。現在、経年によって褪色したこれらの写真は、撮影時に記録した本来の色を失い、あらゆる機関がその課題を抱えはじめています。

アイワードでは 2010 年頃からこの社会的な課題に向き合い、2019 年に業界初となる 1 億 4,680 万画素の褪色復元機「アイワード・デジタイズ・システム」を北海道立総合研究機構との共同研究で開発しました。「アイワード・デジタイズ・システム」は褪色復元だけではなく、最大 A0 サイズの大型原稿を高精細にデジタイズするデジタイズマシンとして、高品位の色再現に力を発揮しています。



2019 年にフジテレビで全国放送された「ニッポンの超絶技巧！直美 & 千鳥のこまつときのお直しさん」で、デヴィ・スカルノ様が大切にしている写真を褪色復元させていただきました。

当社独自の技術は単なる着色加工ではないので、ほとんど見えなくなってしまった背景やシャンデリアも甦らせることができました。

(掲載許諾 デヴィ・スカルノ様)

——効率的に、質の高い書籍を生み出す—— AI による編集の自動化を始動します。

本づくりの文字原稿作成業務において、編集者間でのノウハウ共有の難しさは、多くの現場で直面している課題です。

アイワードではこうした課題を解決するため、著者や編集者がより創造的で独創的なコンテンツづくりに注力できるよう、AI の強みを活用した編集自動化技術の開発を北海道立総合研究機構と共に進めています。

この技術により、AI が著者や編集者を補助し、構成提案の時間の大縮短など、負担軽減と効率化を目指します。現在、当社独自のノウハウがある社史・記念誌事業分野から研究を進めています。今後はこの技術を基盤に、すべての著者や編集者にとって、快適で効率的な本づくりの環境を整えていきます。



## 省エネ化とカーボンニュートラル推進

### 省エネ化に向けた取り組み

環境保全施策として、2017 年に石狩工場の照明をすべて LED に交換し、冷暖房設備の全面的な更新を行いました。同時に、既設の枚葉印刷機 3 台に換わって、生産性の高いハイデルベルグ社製 XL106-8 色機 1 台を導入したこと、使用エネルギーを大幅に削減しました。以降、本社ビルの空調・照明設備の入れ替えなど、省エネ化を積極的に進めています。

また、自然環境保護の観点から、現在稼働している 4



カーボンオフセット認証書  
(枚葉印刷機 XL106-4P)

台の枚葉印刷機のうち 2 台はカーボンニュートラル対応型を導入しています。それにより、CO<sub>2</sub> 排出量をカーボンオフセットにより相殺し、エチオピア・ソドでの森林再生プロジェクトに割り当てています。

### 環境に配慮した書籍を推進

アイワードグループではカーボンオフセットの仕組みを活用した「環境配慮型書籍」の製造を推進しています。

紙の代理店との連携により、使用する紙に対して国の制度である J クレジットを付与することでカーボンオフセットを実現する仕組みです。「J クレジット」とは、省エネや森林保全などの活動によって削減した CO<sub>2</sub> 排出量をクレジットとして認証する制度です。これを活用することで、書籍の製造過程で排出される CO<sub>2</sub> を相殺し、環境に配慮した書籍として製造することができます。



アイワードグループが取り扱う「環境配慮型書籍」には、大丸株式会社が発行するロゴを印刷し、カーボンオフセットの証明を記します。

## BCP 対策

### 全国 14 工場での BCP 協定

アイワードは、全国主要都市の印刷会社 14 社が参画する事業協同組合 EPC-JAPAN の一員であり「事業継続計画策定等に関する協定（BCP 協定）」を結んでいます。

本協定は、東日本大震災、新型コロナウイルス禍等の経験に基づき、「災害等の緊急時に事業体が速やかに事業を復旧、継続することが重要であり、会員企業 14 社間で相互に協働・連携して、BCP の策定を行う」ことを目的としています。

万が一、共同体の一員が事業継続の危機に瀕しても、すぐに他の参画企業が補完できるよう、支援物資の調達、印刷代行支援、資材調達、営業支援、被災地への社員派遣（復興支援）など災害時の対策体制を整えています。



EPC-JAPAN の  
被災対応マニュアル



EPC-JAPAN 会員企業 14 社  
総社員数 3,800 名  
総売上高 680 億円  
所在地 12 都道府県

# 共同文化社

著者の想いを第一にした書籍づくりを目指します。

共同文化社は、地域に根差した文化の掘り起こしを目的として、1980年に設立した出版社です。設立当初は、北海道の著者との結びつきが主でしたが、全国の著者の皆さまからも出版のご要望にお応えできるよう、アイワードと連携して体制を拡げてきました。

現在は、企画出版を推進しながら、全国の大学教員の著書を“研究成果出版”として発行しブランドを拡大しています。



## 主な刊行物



開院10周年記念事業の一環として企画・刊行。小樽市立病院の「今」を広く伝える一冊です。よくある症状を題材に各科・各分野の専門医が誌上カンファレンスしながらに100以上の病気を解説しています。



社員の満足度や幸せを最大目標、最大成果と考える経営こそが、人を大切にする経営であるという経営学をベースに、8,000社の企業研究から導き出した1,000の用語を徹底解説しています。



日高山脈は、北海道の脊梁＝背骨です。人々をひき付ける魅力ある日高山脈は、国内35番目で最大規模の国立公園になりました。この山脈に刻まれた歴史、文化、記憶を紐解きながら、深く険しい山脈へ挑んだ人たちの様々なドラマを振り下げています。

小樽市立病院ガイドブック  
80人のドクターが語る身近な病気と対策  
編著者: 小樽市立病院

A4判/160ページ/カバー付き  
特別付録(B2判 おたる・しりべし健康地図)付き

人を大切にする経営学 用語事典  
監修: 坂本光司・三村聰  
一般社団法人 人を大切にする経営学会編  
A5判/800ページ/ビニールカバー付き/箱入り

## 共同文化社の出版プラン

### 企画出版

共同文化社が企画立案し刊行します。持込み原稿の場合、採算ベース、公序良俗、書籍の内容などを出版委員会において検討しています。

### 共同出版

自費出版の中でも、著作を書店やオンラインストアなどで販売したい方やISBNコード・JANコードを付与したい方へは、書店流通を行う「流通販売型共同出版」と、完成書籍はすべて著者にお渡しする「著者引き取り型共同出版」の形態で出版をお手伝いします。



共同文化社は出版された書籍が文化を支える土壌となり、新しい価値を育て、次世代に豊かな文化を継承するお手伝いをしています。

全国各地には、豊かな地域文化や芸術が多く存在しています。それらの文化を掘り起こし、書籍というかたちでたくさんの方に知つてもらうことが、共同文化社の活動です。また、その活動は著者・編集者・読者との共同作業によって行われます。著者の想いに寄り添い、読者の視点を理解し、よりよい本づくりに向かって一緒に創造していくことを大切にしています。



「ほんまる神保町」で棚主として本を販売しています。

ほんまる神保町は、本棚を借りた棚主がそれぞれのおすすめの本、出版した本などを販売する“シェア型書店”で、東京都千代田区神田神保町にあります。2024年10月より、共同文化社は1階29章01節の棚主となりました。





<b>1965</b> (昭和 40 年)	札幌市月寒にて「北海道共同軽印刷」として創業
<b>1966</b> (昭和 41 年)	株式会社として発足
<b>1968</b> (昭和 43 年)	札幌市北区北 16 条へ移転
<b>1971</b> (昭和 46 年)	札幌市中央区北 2 東 5 へ移転
<b>1974</b> (昭和 49 年)	木野口功(後に代表取締役)を常務として迎え 経営指針を策定し、新生への道を歩み出す 「株式会社北海道共同印刷所」と社名変更
<b>1975</b> (昭和 50 年)	モトヤ製タイプレス P 型道内 1 号機を導入 ドイツ・ハイデルベルグ製菊半裁判全自動印刷機の導入でオフセットの基礎を確立
<b>1977</b> (昭和 52 年)	岩佐ビル(札幌市中央区北 3 東 5)に営業センター開設 デザイン部門を設置。無線綴じ製本機を導入
<b>1979</b> (昭和 54 年)	株木ビル(札幌市中央区北 3 東 5)に営業センター移設 「本づくりのごあんない」(第 1 版)発行 道内初のカラー年賀状に取り組む(30 万枚達成)
<b>1980</b> (昭和 55 年)	将来のコンピュータ化を予測し、東京のコンピュータ企業へ社員を 3 年間出向させる
<b>1981</b> (昭和 56 年)	「月刊ニュースきょうどう」創刊
<b>1982</b> (昭和 57 年)	「株式会社共同印刷」と社名変更 モトヤ製ワープロ+印字ロボット=WP-6000 道内 1 号機導入
<b>1983</b> (昭和 58 年)	田上印刷株式会社(札幌市中央区大通東 3)とグループ会社になる 「新しい PR 誌創造展」を札幌市民会館で開催 日報×社内報活動を開始して社内報「フォーラム」を創刊
<b>1984</b> (昭和 59 年)	写研製電算写植システム導入 「第 1 回全国自費出版展」を札幌市民会館で開催
<b>1985</b> (昭和 60 年)	本社屋ビル(札幌市中央区北 3 東 5)完成 スイス・ミューラー・マルティニ製無線綴じ機

<b>1986</b> (昭和 61 年)	名簿ソフト「幹事帳」を発売 「25 万円会社案内システム」を発売
<b>1987</b> (昭和 62 年)	ヨーロッパ研修を開始 200 級カラー印刷発表
<b>1988</b> (昭和 63 年)	印刷業務ソフト「大地シリーズ」発売 田上印刷『オフセット印刷 40 年のあゆみ』を刊行
<b>1989</b> (平成元年)	「ニュースきょうどう」通巻第 100 号を発行 「大地シリーズ」たくぎん・どさんこ技術開発 奨励賞受賞 改題「本づくりハンドブック」発行 『共育』(木野口 功著)刊行
<b>1990</b> (平成 2 年)	TAGAMI ビル(大通工場：札幌市中央区大通東 3)増改築完成 障がい者雇用モデル製本工場を本社屋へ増築 「全国カタログ・ポスター展」入賞作品展開催 「ニュースきょうどう・カムイミンタラ展」開催
<b>1991</b> (平成 3 年)	「全国造本装幀コンクール」入賞作品展開催
<b>1992</b> (平成 4 年)	東京事務所(東京都板橋区大和町)開設 ファクトリーセミナーを大通工場で開催 定山渓保養所「かいあい荘」(温泉付)完成
<b>1993</b> (平成 5 年)	共同印刷・田上印刷が合併し、アイワードとなる 「ニュースきょうどう」を「月刊アイワード」と改題 興新印刷産業とグループ会社になる
<b>1994</b> (平成 6 年)	興国印刷(札幌市西区西町)とグループ会社になる コーシン印刷新社屋建設(札幌市東区北 12 東 2)
<b>1995</b> (平成 7 年)	創業 30 周年記念祝賀会を開催
<b>1996</b> (平成 8 年)	インターネットホームページ開設
<b>1998</b> (平成 10 年)	興国印刷『90 年のあゆみ－興国印刷小史』を刊行 興国印刷の生産部門をアイワードへ移行 協同組合札幌テクネット結成 石狩工場(石狩市新港西 3)竣工 三菱重工製 B 半裁判オフセット輪転印刷機を導入
<b>2000</b> (平成 12 年)	東京事務所を東京支店に昇格し移転する(東京都文京区白山) CTP とデジタル色校正機「スピードブルーフ 8000」導入 KDDI 通信衛星システム(KDDI スカイキャスト)設置 国際障害者技能競技大会(プラハ)で社員が銀メダル獲得
<b>2001</b> (平成 13 年)	ISO 9001 の認証を全社で取得 月刊アイワード創刊 20 周年、通巻第 240 号を発行 三菱重工製 A 全判オフセット輪転印刷機を導入 コーシン印刷に「全自動封筒製袋機」を導入
<b>2002</b> (平成 14 年)	ISO 14001 の認証を石狩工場で取得 「北海道自費出版展」をさっぽろテレビ塔で開催
<b>2003</b> (平成 15 年)	ハイデルベルグ製 8 色両面兼用印刷機(カットスター付)2 台導入 代表取締役 木野口 功が北海道産業貢献賞を受賞
<b>2004</b> (平成 16 年)	興国印刷から営業権を譲受 興国印刷解散。従業員をアイワードに移籍 「デジタルカメラ RAW データから高級カラー印刷へ」の新サービス発表
<b>2005</b> (平成 17 年)	スーパーファインカラー(高精細 7 色印刷)の技術を確立 「プライバシーマーク」の認証を全社で取得
<b>2006</b> (平成 18 年)	月刊アイワード創刊 25 周年、通巻第 300 号を達成 「月刊アイワード展」を北海道立文学館で開催
<b>2007</b> (平成 19 年)	決算期を 1~12 月から 4 月~翌年 3 月に変更 大通工場売却 札幌工場完成 高色域インキ「ワイドカラー」、広演色インキ「カレイド」による高精細印刷技術の導入 ハイデルベルグ製 B 全判 7 色印刷機(水性ニスコーター付)導入
<b>2008</b> (平成 20 年)	商業オフセット印刷の国際規格「ISO 12647-2」をプリプレス部門、プレス部門で同時認証
<b>2009</b> (平成 21 年)	月刊アイワードが「平成 20 年度 北海道地域文化選奨特別賞(企業市民文化賞)」を受賞 コーシン印刷から連続伝票事業と封筒製袋事業を移譲
<b>2010</b> (平成 22 年)	アイワードがプロジェクトに参画した「ハローサンロクゴカレンダー」が「第 7 回アジア・プリン
<b>ト・アワード」(2009 年 11 月)で金賞を受賞</b>	月刊アイワードを一旦休刊する ISO 9001・ISO 14001 の認証管理から、独自の品質管理・環境保全活動への取り組みとする 印刷と同時に電子書籍づくり サービスを発表 経営理念・スローガンの徹底と経営力と企業価値を高める再生 7 カ年計画をスタートさせる 定山渓保養所「かいあい荘」を
<b>2011</b> (平成 23 年)	植物油インキマーク(印刷インキ工業連合会)の認証取得 アップル社 iPad 用電子書籍登録の App-Store、iOS Developer Program へ参加。iPad 版アプリの販売を開始
<b>2012</b> (平成 24 年)	編集支援業務の「アカイレ」サービス開始
<b>2013</b> (平成 25 年)	最大束幅 8 cm の PUR 製本が可能なミューラーマルティニ製ボレロ製本ライン稼働
<b>2014</b> (平成 26 年)	代表取締役会長に木野口 功、代表取締役社長に奥山敏康が就任 褪色カラー写真の色復元を行う技術のプロトタイプ版をビジネス EXPO で発表
<b>2015</b> (平成 27 年)	劣化写真の復元に関する研究にに関し国立大学法人北海道大学と共同研究契約を締結 共同研究の成果によってカラー復元した写真展覧会「カラーで甦る古代遺跡の写真」を古代オリエント博物館(東京都池袋)主催(5 月~7 月)、北海道大学主催(11 月)にて開催 北海道中小企業総合支援センターの産学連携等研究開発支援事業「褪色カラー写真復元機器デジタル・スタジオの開発と復元事業の市場化」開始
<b>2016</b> (平成 28 年)	北海道立総合研究機構と「褪色カラー写真復元システム改善のための要素技術開発」に関し共同研究契約を締結する(JST 研究成果展開事業マッチングプランナープログラム) 電子情報通信学会論文誌に北海道大学とアイワードの共著論文「多項式近似に基づく褪色カラーフィルムのデジタル画像復元」田中章(北海道大学大学院情報科学研究科)、株式会社アイワードを発表する ノーステック財団「札幌型ものづくり開発推進事業」(札幌市補助事業)の公募で、「サッポロ発『褪色カラー写真の色復元システム』の高度化とマーケット開拓」開始
<b>2017</b> (平成 29 年)	NHK の全国放送番組「超絶 凄ワザ!」で「褪色カラー写真のデジタル化復元」が紹介される 石狩工場の使用エネルギーを前年より 20% 以上削減するスマートファクトリー化を実現。AI 搭載の印刷システム ハイデルベルグ製「XL-106-8P」カットスター付き 1 号機導入 設立 50 周年記念事業「北海道自費出版・記念誌展」を北海道新聞本社 1 階 DO-BOX で開催する 設立 50 周年記念および石狩工場スマートファクトリー化感謝のつどいを開催する。あわせて、石狩工場見学会、および記者発表会を実施
<b>2018</b> (平成 30 年)	褪色カラー写真のデジタル化復元が、「平成 29 年度北海道新技術・新製品開発賞」をぐり部門大賞」を受賞 坂本光司法政大学教授の著書『日本でいちばん大切にしたい会社 6』(あさ出版)に紹介される 「北海道自費出版・記念誌展」を北海道新聞 1 階 DO-BOX で開催する
<b>2019</b> (平成 31 年・令和元年)	清水正道筑波学院大学客員教授編著の『人を活かし組織を変える インターナル・コミュニケーション経営』(経団連出版)に紹介される 季刊アイワードを刊行する AI 搭載の印刷システム ハイデルベルグ製「XL-106-8P」カットスター付き 2 号機を導入する 協同組合札幌テクネットの活動を終了
<b>2020</b> (令和 2 年)	写真家ロバート・キャバの写真展「WAR」(会場: 東京都写真美術館、主催: クレヴィス)に協賛する
<b>2021</b> (令和 3 年)	「アワードがお手伝いできること BOOK『社会・記念誌編』」パンフレットを発行
<b>2022</b> (令和 4 年)	「アワードがお手伝いできること BOOK『社会・記念誌編』」5 点を発売
<b>2023</b> (令和 5 年)	研究者向けの出版サービス「研究成果出版」専門サイトを開設 「北海道自費出版・記念出版・記念誌展」をさっぽろテレビ塔で開催 「アワードがお手伝いできること BOOK《編集支援編》」パンフレットを発行
<b>2024</b> (令和 6 年)	「アワードがお手伝いできること BOOK《社会・記念誌編》」パンフレットを発行 AI 搭載のハイデルベルグ製「XL-106-8P」カットスター付き(カーボンニュートラル対応型)を導入する 協同組合札幌テクネットの活動を終了
<b>2025</b> (令和 7 年)	写真家ロバート・キャバの写真展「WAR」(会場: 東京都写真美術館、主催: クレヴィス)に協賛する

## 共同文化社

<b>1980</b> (昭和 55 年)	株式会社共同文化社を設立
<b>1991</b> (平成 3 年)	『文字情報処理の基礎知識』(大谷勝明著)を刊行
<b>1992</b> (平成 4 年)	毛利衛さん搭乗のエンデバー写真集『SPACE LAB』(柴田三雄著)を刊行
<b>1999</b> (平成 11 年)	『創業のこころ』(月刊アイワード編集委員会編)を刊行
<b>2001</b> (平成 13 年)	『漢字・仮名・記号テキスト』(佐々木光朗編)を刊行
<b>2004</b> (平成 16 年)	住宅リフォーム専門誌『プラン ドウ リフォーム』を発刊
<b>2005</b> (平成 17 年)	スーパーfinカラーの写真集『EVER』(佐藤敏光著)を刊行
<b>2007</b> (平成 19 年)	「アワードオリジナルアーティストカレンダー」5 点を発売
<b>2009</b> (平成 21 年)	『M. M. ドプロトヴォールスキイのアイヌ語・ロシア語辞典』(M. M. ドプロトヴォールスキイ著、寺田吉孝・安田節彦訳)を刊行
<b>2020</b> (令和 2 年)	『人を大切にする経営用語事典』(人を大切にする経営学会編)を刊行



アイワードの  
スマートファクトリーは  
未来志向のエネルギーハブ都市  
「石狩市」にあります。

石狩工場は、札幌本社から車で約40分の距離に位置し、約760社の企業が立地する「石狩湾新港地域」（総面積約3,000ha）の巨大な工業団地に立地しています。

石狩市は2020年に「ゼロカーボンシティ宣言」を行い、2050年に温室効果ガス排出量実質ゼロの実現をめざすことを表明し、取り組みを進めています。

## 主な受賞歴

### アイワードの受賞



2009年

「元気なモノ作り中小企業300社」にアイワードが選定されました



2017年

北海道新技術・新製品開発賞で  
「褪色カラー写真のデジタイズ復元」が大賞を受賞



2019年

世界で最も美しい本コンクール栄  
誉賞／第52回造本装幀コンクー  
ル展審査員奨励賞

『the first』

発行：ポンボンジャパン 著者：田中  
健太郎 装幀：サイトヲヒデユキ 製  
本：石田製本 印刷：アイワード



2020年

第8回ものづくり日本大賞「もの  
づくり地域貢献賞」（北海道経済  
産業局長賞）を受賞

「褪色カラー写真のデジタイズ復  
元」



2024年

第57回造本装幀コンクール審査員  
奨励賞を受賞

『MITTAN 1』

発行：合同会社スレッドルーツ 文章：  
MITTAN 写真：鈴木良 撮影補佐：鈴  
木真美 装幀：米山菜津子 翻訳：ダニ  
エル・アピー 製本：篠原紙工 印刷：ア  
イワード

### 共同文化社の受賞



2009年

第43回造本装幀コンクール日本  
印刷産業連合会会长賞を受賞  
『PEACE LAND』  
著者：M.HASUI



2010年

北見文化連盟  
第14回林白言文学賞佳作を受賞  
『風の橋』  
著者：上伊澤 洋



2023年

北見文化連盟  
第26回林白言文学賞を受賞  
『赤いテラスのカフェから』  
著者：加藤利器



2023年

日本翻訳家協会 第59回日本翻訳  
出版文化賞を受賞  
『M. M. ドプロトヴォールスキイのア  
イヌ語・ロシア語辞典』  
著者：M. M. ドプロトヴォールスキイ  
訳者：寺田吉孝、安田節彦



本 社 〒060-0033 札幌市中央区北3条東5丁目5番地91

TEL 011-241-9341 FAX 011-207-6178

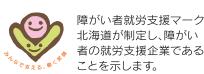
東京営業部 〒101-0065 東京都千代田区西神田2丁目4番3号 高岡ビル6階

TEL 03-3239-3939 FAX 03-3239-3945

石狩工場 〒061-3241 石狩市新港西3丁目768番地4

TEL 0133-71-2777 FAX 0133-71-2895

<https://iword.co.jp>



<https://kyodo-bunkasha.net>



〒060-0033 札幌市中央区北3条東5丁目

TEL 011-251-8078 FAX 011-232-8228

[Facebook] <https://www.facebook.com/kyodobunkasha>

E-mail : [info@kyodo-bunkasha.net](mailto:info@kyodo-bunkasha.net)